

総合計画・総合戦略策定にかかる 市の特性分析

～庁内会議および審議会における活用～

大阪府 大東市 戰略企画室



1. 現状分析

1-1 人口動態



【現状把握】
北東部（山間部を含む地域）に集中していた人口が、徐々に市内全域へと均等に広がり、現在は西部へと移行している

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

1. 現状分析

1 - 2 将来人口推計



【現状把握】

将来人口は、市域全体として人口減少が進むとともに、高齢化が進展することが推測されている

社人研の推計では、高齢者人口は、今後横ばいで進む一方で、生産年齢人口が減少するとされる

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

i-都市交流会議2020

3

1. 現状分析

1 - 3 昼間人口



【現状把握】

昼間の人口については、一部が突出しており、偏りがある。西部における昼間人口の高い場所は、大企業が立地している場所、東部は、市民体育館と大学等の教育機関が立地している場所に人口が集中している

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

i-都市交流会議2020

4

2. 今後の社会展望

地域課題の多様化とITの進展

5G、IoT、AIなどのITの進展による、Society 5.0やスマートシティ、スーパー・シティの実現

«想定される社会»

- ・自動運転による車の運行
- ・ロボットによる高齢者の見守り
- ・ドローンによる災害活動支援
- ・遠隔操作による医療 など



ITの進化によって、人口減少・少子高齢化、経済産業活動などの地域課題を解決する可能性

i-都市交流会議2020

5

3. 庁内会議および審議会での議論

ブレインストーミング 《現状分析×今後の社会展望》

現状分析と今後の社会の動きを踏まえた上で、総合計画において、目標年次となる10年後の大東市がどうあるべきか、また、そのために何をすべきか、を考える



⇒データを可視化することによって、認識の共有がスムーズに図られ、画像から見えてくる視点や課題等から、議論を行うことができた

i-都市交流会議2020

6

4. まとめ

《現状分析より》

①北東部の人口が減少していることは、空家の増加を示唆するものであり、それは同時に住宅としての受け皿があることを意味することから、これらを良質な住宅ストックとして整備することで、定住人口の増加につなげられる可能性あり

(※北東部は山間部の急傾斜地を含む地域であり、人口減少と高齢化が顕著)

②今後、高齢者数の増加は緩やかになり、横ばいとなる傾向ではあるものの、一定数保持される

③夜間人口が少ない地域において、昼間人口が多い傾向。日中に人口が集中している市民体育館（市民）と大学等教育機関（学生）との間に交流が生まれれば、関係人口による新たな活性化が生まれる可能性あり



《今後の社会展望より》

①IT技術の進展により、交通課題や医療課題が解決され、山間部の急傾斜地という地理的弱点が克服される（弱点ではなくなる）可能性あり

②IT技術が進展するほど、情報弱者やコミュニティの希薄化に対する対策が必要

これらの要素を鑑みながら、大東の特性と将来動向を踏まえた
まちづくりの在り方について、引き続き検討を行う

大阪府 大東市

都市の紹介

